

世界的規模のランサムウェア感染事案の発生について

1 概要

平成29年 5月12日以降、世界約150か国において政府機関、病院、銀行、大手企業等のコンピュータが、ランサムウェア（身代金要求型の不正プログラム）に感染させられる事案が発生。被害件数は約30万件に上ると言われており、英国の病院では、患者のファイルが確認できなくなる、救急車の搬送先が変更になる、手術が中止になるなどの影響が生じた。

2 手口

「WannaCry」等と呼ばれるランサムウェアをコンピュータに感染させ、保存されている文書ファイル、映像ファイル等のデータを暗号化して利用できなくし、復号してほしい場合はビットコイン（※）で300ドルを支払うよう要求する。

※ インターネット上で流通している仮想通貨であり、個人間の取引、とりわけ国境を越えた送金・決済に利用される。



ビットコインの支払いを要求する画面

3 国内の被害状況

警察が把握した件数：21件（5月17日 17:00時点）

※ いずれも人命に影響を及ぼすような被害は確認されていない。

4 対処方法

- ・ コンピュータのWindows OSを常に最新版にアップデートしておく
- ・ 重要なデータについてはバックアップを確保しておく 等

5 警察における対応

引き続き、被害状況の把握に努めるとともに、内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）等の関係機関と連携した諸対策を推進する。